

## 課題整理シート

## 「4 誰もが気持ちよく共に暮らせる環境づくり」についての課題

現計画の方向性	<p>障がいのある人が住みやすいと思えるまちをつくることは、全ての人が住みやすいと思えるまちをつくることにつながります。障がいのある人を取り巻く物理的障壁・制度的障壁・情報面の障壁・意識上の障壁を取り除き、自由に社会参加できるバリアフリーのまちづくりを推進し、障がいのある人にやさしいまちづくりをめざします。</p> <p>(1) 自由な移動の確保 ①自由な移動の確保</p> <p>(2) 住まいの確保・整備 ①住まいの確保・整備</p> <p>(3) 心の健康 ①こころの健康づくり</p>															
国の方針	<p>○災害対策基本法が改正され、区市町村において災害時要配慮者の支援を実施するための基礎となる名簿（避難行動要支援者名簿）の作成が義務付けられた。</p> <p>○「道路交通法施行規則の一部を改正する内閣府令」の公布（聴覚障害者が運転できる車両の種類拡大）（平成23年9月）</p> <p>○「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の一部を改正する法律」が成立（平成30年5月）</p> <p>【障害者計画（第4次）】</p> <p>1. 安全・安心な生活環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動しやすい環境の整備等</li> <li>・アクセシビリティに配慮した施設、製品等の普及促進</li> <li>・障害者に配慮したまちづくりの総合的な推進</li> </ul> <p>3. 防災、防犯等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災対策の推進</li> <li>・東日本大震災を始めとする災害からの復興の推進</li> <li>・防犯対策の推進</li> <li>・消費者トラブルの防止及び被害からの救済</li> </ul>															
1 事業評価	—															
2 アンケート調査結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">調査結果項目</th> <th style="text-align: center;">問番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>どれくらい外出しているかについて、「ほとんど毎日」が46.1%と最も高く、次いで「週に3～4回くらい」が23.8%、「週に1～2回くらい」が16.5%。</td> <td style="text-align: center;">当事者問18</td> </tr> <tr> <td>外出のとき、不便に感じたり困ることについて、「特にない」が44.3%と最も高く、「身近な公園や歩道のベンチなど、休憩できる場所が少ない」が15.6%、「バス停や駅まで遠い」「歩道が整備されていない」が10.9%。</td> <td style="text-align: center;">当事者問19</td> </tr> <tr> <td>火事や地震等の災害が起こった時に一人で避難できるかについて、「ひとりで判断でき、避難できる」が56.4%と最も高く、次いで「一人では判断できないし、避難もできない」が20.0%、「一人で判断できるが、避難はできない」が18.9%。</td> <td style="text-align: center;">当事者問33</td> </tr> <tr> <td>災害や火災などの緊急時に避難する際に、手助けを頼める人はいるかについて、「同居の家族」が65.4%と最も高く、次いで「別居の家族」が15.7%、「近所の人」が13.3%、「いない」が11.3%。</td> <td style="text-align: center;">当事者問34</td> </tr> <tr> <td>災害が起きたときに、あなたやあなたの家族が、避難所で配慮してほしいことについて、身体障がいや高齢者、妊産婦、乳児、その他特別な事情により体調が変化しやすい人への配慮・支援が56.2%、知的障がいや「間仕切りの設置など、プライバシーに関する配慮」が67.0%、精神障がいや「不安やストレスを和らげるための心のケアや相談体制の整備」が59.8%と高い。</td> <td style="text-align: center;">当事者問35</td> </tr> <tr> <td>防災に対する日ごろからの取り組みや、災害などの緊急時のことについて、『① 災害時の避難場所を知っていますか』で「はい」が66.5%、『② 避難行動要支援者名簿を知っていますか』で「いいえ」が61.0%と高い。</td> <td style="text-align: center;">当事者問36</td> </tr> </tbody> </table>	調査結果項目	問番号	どれくらい外出しているかについて、「ほとんど毎日」が46.1%と最も高く、次いで「週に3～4回くらい」が23.8%、「週に1～2回くらい」が16.5%。	当事者問18	外出のとき、不便に感じたり困ることについて、「特にない」が44.3%と最も高く、「身近な公園や歩道のベンチなど、休憩できる場所が少ない」が15.6%、「バス停や駅まで遠い」「歩道が整備されていない」が10.9%。	当事者問19	火事や地震等の災害が起こった時に一人で避難できるかについて、「ひとりで判断でき、避難できる」が56.4%と最も高く、次いで「一人では判断できないし、避難もできない」が20.0%、「一人で判断できるが、避難はできない」が18.9%。	当事者問33	災害や火災などの緊急時に避難する際に、手助けを頼める人はいるかについて、「同居の家族」が65.4%と最も高く、次いで「別居の家族」が15.7%、「近所の人」が13.3%、「いない」が11.3%。	当事者問34	災害が起きたときに、あなたやあなたの家族が、避難所で配慮してほしいことについて、身体障がいや高齢者、妊産婦、乳児、その他特別な事情により体調が変化しやすい人への配慮・支援が56.2%、知的障がいや「間仕切りの設置など、プライバシーに関する配慮」が67.0%、精神障がいや「不安やストレスを和らげるための心のケアや相談体制の整備」が59.8%と高い。	当事者問35	防災に対する日ごろからの取り組みや、災害などの緊急時のことについて、『① 災害時の避難場所を知っていますか』で「はい」が66.5%、『② 避難行動要支援者名簿を知っていますか』で「いいえ」が61.0%と高い。	当事者問36	
調査結果項目	問番号															
どれくらい外出しているかについて、「ほとんど毎日」が46.1%と最も高く、次いで「週に3～4回くらい」が23.8%、「週に1～2回くらい」が16.5%。	当事者問18															
外出のとき、不便に感じたり困ることについて、「特にない」が44.3%と最も高く、「身近な公園や歩道のベンチなど、休憩できる場所が少ない」が15.6%、「バス停や駅まで遠い」「歩道が整備されていない」が10.9%。	当事者問19															
火事や地震等の災害が起こった時に一人で避難できるかについて、「ひとりで判断でき、避難できる」が56.4%と最も高く、次いで「一人では判断できないし、避難もできない」が20.0%、「一人で判断できるが、避難はできない」が18.9%。	当事者問33															
災害や火災などの緊急時に避難する際に、手助けを頼める人はいるかについて、「同居の家族」が65.4%と最も高く、次いで「別居の家族」が15.7%、「近所の人」が13.3%、「いない」が11.3%。	当事者問34															
災害が起きたときに、あなたやあなたの家族が、避難所で配慮してほしいことについて、身体障がいや高齢者、妊産婦、乳児、その他特別な事情により体調が変化しやすい人への配慮・支援が56.2%、知的障がいや「間仕切りの設置など、プライバシーに関する配慮」が67.0%、精神障がいや「不安やストレスを和らげるための心のケアや相談体制の整備」が59.8%と高い。	当事者問35															
防災に対する日ごろからの取り組みや、災害などの緊急時のことについて、『① 災害時の避難場所を知っていますか』で「はい」が66.5%、『② 避難行動要支援者名簿を知っていますか』で「いいえ」が61.0%と高い。	当事者問36															

	<p>災害に備えて日頃からしていることについて、「防災グッズ（非常用食料、飲料水等）の準備」が 86.4%と最も高く、次いで「家具の固定、ガラス拡散対策」が 45.9%、「避難場所・ルートの確認」が 40.9%。</p>	<p>当事者 問 36-1</p>
	<p>小金井市は「誰もがいきいきと暮らすことのできるまち」だと思うかについて、“そう思う”が 53.0%（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を足した割合）である。</p>	<p>当事者 問 50</p>
	<p>将来、どのように暮らしたいかについて、「家族と暮らしたい」の割合が 51.1%（身体障がい：56.1%、知的障がい：36.3%、精神障がい：41.1%）と最も高い。</p>	<p>当事者 問 51</p>
	<p>市の住宅対策として、今後特に望むことについて、「住宅改修費の助成制度の充実」が 23.8%と最も高く、次いで「特にない」が 22.8%、「障がいに配慮した公営住宅の整備」が 22.7%。</p>	<p>当事者 問 52</p>
	<p>障がいのある人にとって暮らしよいまちづくりのためには、どのようなことが必要かについて、知的障がいで「公営住宅の優先入居や、グループホームの整備など、生活の場の確保」が 35.6%、身体障がいで「公共交通や道路、公共施設等のバリアフリー化」が 23.9%、「災害のときの避難誘導體制の整備」が 23.5%と高い。</p>	<p>当事者 問 53</p>
<p>3 次期計画に向けた課題</p>	<p>(1) 自由な移動の確保        買い物や通勤・通学、通所・通院等の日常生活だけでなく、積極的に地域活動に参加するためには、移動手段の確保は欠かせません。また、誰もが地域の一員として社会参加していくためにも、障がい特性に応じた情報提供やコミュニケーション手段の確保が必要です。        アンケート調査によると、外出のとき、不便に感じたり困ることについて、「身近な公園や歩道のベンチなど、休憩できる場所が少ない」、「バス停や駅まで遠い」、「歩道が整備されていない」などの意見があがっています。        障がいのある人を含む、すべての人にやさしく安全なまちづくりに向けて、既存施設のバリアフリー化や、生活道路や歩道の整備に努めることが必要であるとともに、障がいのある人の外出を支援するために、公共交通機関等の移動手段をより利用しやすくする必要があります。        また、視覚・聴覚障がいのみならず、様々な特性や一人一人の状況、必要性に応じた、コミュニケーション手段の確保に努めていくことが必要です。</p> <p>(2) 住まいの確保・整備        障がいのある人が住み慣れた地域で安定した生活を継続するためには、障がいの状況に応じた居住の場を整えることが重要です。        市の住宅対策として、今後特に望むことについて、「住宅改修費の助成制度の充実」が 23.8%と最も高く、「障がいに配慮した公営住宅の整備」が 22.7%となっています。        障がいのある人にとって暮らしよいまちづくりのために必要なことについて、知的障がいで「公営住宅の優先入居や、グループホームの整備など、生活の場の確保」が 35.6%、身体障がいで「公共交通や道路、公共施設等のバリアフリー化」が 23.9%、「災害のときの避難誘導體制の整備」が 23.5%と高くなっています。        今後も、障がいのある人が望む住まい方を基本として、地域で自立し、安定した社会生活を送り続けるための環境づくりを進めていくことが必要です。</p> <p>(3) 心の健康        こころの健康に関して心配のある人やその家族を対象に、相談窓口の周知に努めます。また、メンストレスへの対応方法やこころの健康に関する正しい知識の普及とともに、相談窓口や専門相談機関の周知を図ります。また、閉じこもりなどが問題となる高齢期については生きがいづくりや社会参加の支援に取り組みます。さらに、身近な人のこころの不調に気づき、声をかけ、話を聞いて、専門の機関につなげるなど、必要な支援を行っていきます。</p> <p>※追加課題        アンケート調査によると、災害時に一人で避難できない人が約4割となっています。また、災害や火災などの緊急時に避難する際に、手助けを頼める人がいない人が1割います。        災害が起きたときに、避難所で配慮してほしいことについて、身体障がいで「高齢者、妊産婦、乳児、その他特別な事情により体調が変化しやすい人への配慮・支援」、知的障がいで「間仕切りの設置など、プライバシーに関する配慮」、精神障がいで「不安やストレスを和らげるための心のケアや相談体制の整備」の割合が高くなっています。        今後も、災害発生時の迅速かつ適切な情報提供、避難支援体制の強化、避難生活における安全・安心の確保等に向け、地域全体で取り組んでいくことが必要です。</p>	